

【実践事例1】 長音の正しい表記の定着を図るために（1年）

1.学習材 のばす音を正しく書こう

2.ねらい 長音の表記ルールを理解して、正しく書くことができる。

3.学習の流れ

(1)教師が五種類の長音を含む言葉を言い、児童が聴写する。

のばす音の右横に黒丸(●)の印を付けさせ、その一つ前の音には線を引かせる。

ひらがなの五十音(「を」と「ん」を除く)は、長くのばして発声するとそれぞれの列のア行「あ」「い」「う」「え」「お」の音になることから、ア行は『ひらがなのおかあさん』になることを確認する。

(2)ひらがな表を使い、長音の表記ルールを確認する。

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ	①
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い	②
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う	③
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え	④
ん	ろ	よ	も	ほ	の	ど	そ	こ	お	⑤

①ア列、イ列、ウ列の長音の表記ルールを確かめる。

「か」を長くのばして発音すると「あ」の音になり、「あ」のお母さんが来てくれることを確認する。同様に「い」のお母さん、「う」のお母さんについても確認する。

②エ列の長音の表記ルールを確かめる。

児童の様子

- ・ひらがなの表を見て「あ」「い」「う」のお母さんと同じように「え」のお母さんが来てくれると予想したが、「い」のお母さんばかりが手伝いに来てくれることに気付く。
- ・「え」のお母さんが来てくれるのは「ねえ」と「おねえさん」のときだと気付く。

『「おねえさん」は寂しがり屋なので、「え」のお母さんと離れたくありません。だから、エ列の音がのびるときは「い」のお母さんがお手伝いに来てくれます。』と例外について説明し、掲示する。

おねえちゃん は さびしがりや。 「え」の おかあさん と は なれたく ありません。


③オ列の長音の表記ルールを確かめる。

⑤ おとうさん ぼくのおとうさん

のばす音を発声すると「お」の音になる言葉を用いて確認する。

児童の様子

・これも「あ」「い」「う」のお母さんと同じように「お」のお母さんが来てくれると予想したが、「う」のお母さんが手伝いに来てくれることが多いことに気付く。



『「お」のお母さんは大忙しで遠くに行ってしまう、あまり家に帰ってきません。代わりにオ列の音がのびるときは、「う」のお母さんがよく手伝いに来てくれます。でも、「お」のお母さんはずっと留守にはできないので、帰ってくるときもあります。』

と例外について説明し、『「お」のうた』を掲示する。そして、声に出して何度も唱える。

(3) 確認問題を解く。

『お』のうた

① ② ③

① おなべには とおふを いれます。
② とけいを みる。
③ おうだんぼどうを わたる。

④ おおだんぼどうを わたる。

のばす音（ひらがなのお母さん）の右横に・（点）を付けさせ、どちらの表記が正しいか判断させる。

～児童の振り返りより～

のばす音はききまちがえなごがあるからおぼろかしい。

またまよいそうです。たのしかったです。

《実践を終えて》

今回の実践では、ひらがな表を用いながら長音の表記ルールを確認したことで、長音の正しい表記についての意識を高めることができた。特に、エ列とオ列の例外をイラストで示すことで、児童にとって捉えやすかったようである。オ列の例外に関しては、『「お」のうた』を提示して視覚的にストーリー性を感じながら読んだり、リズムに乗って手を叩きながら読んだり、「十人のインディアン」のメロディーに乗せて歌ったりするなど、アレンジをして楽しみながら取り組むこともできる。

聴写の際に、長音を抜いたり長音記号を用いたりする誤りが見られたが、見直しの声かけをすると書き直す姿が見られた。また、聴写することによって、聞こえる音と書く文字が異なる場合があることに気付く児童もいた。間違いやすい言葉に注意を払いながら書いたり、書いた文字や文を丁寧に見返したりする習慣を身に付けさせることが大切である。

しかし、「おうだんぼどう」といった長い言葉になるとまだまだ難しく感じる児童もいた。迷ったときには『「お」のうた』を思い出させ、今後もモジュール学習等で継続して確認プリントに取り組み、長音の正しい表記の定着を図ってきたい。

ただしく かけるかな♪

月 日

なまえ ()

◇ せんせいが いった ことばを ひらがなで かいて みよう。

①

④

②

⑤

③

◇ ただしく かいて いる ほうを えらんで、 () に ○ を つけましょう。

①

() おなべには とおふを います。
() おなべには とうふを います。

②

() とけえを みる。
() とけいを みる。

③

() おうだんほどうを わたる。
() おおだんほどうを わたる。

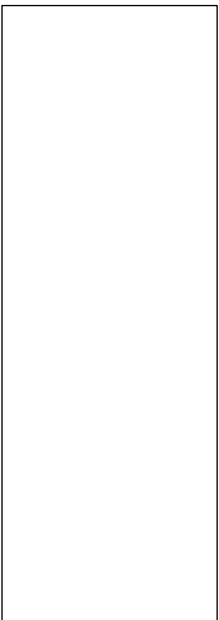
ただしく かけるかな♪

月 日

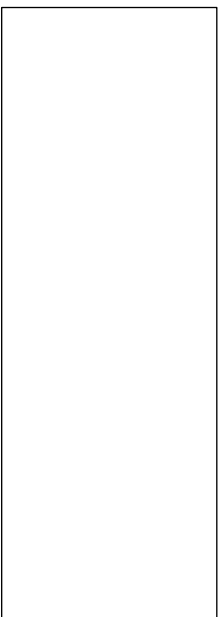
なまえ)

◇せんせいがあった ことばを ひらがなで かいて みよう。

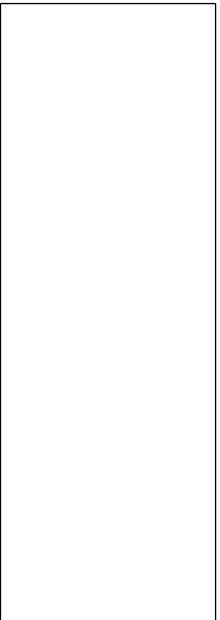
①



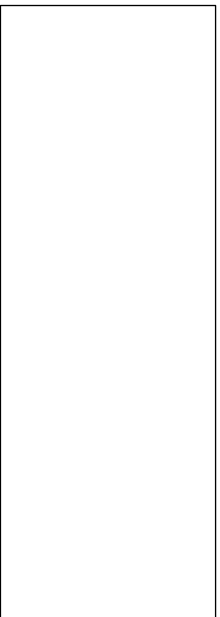
④



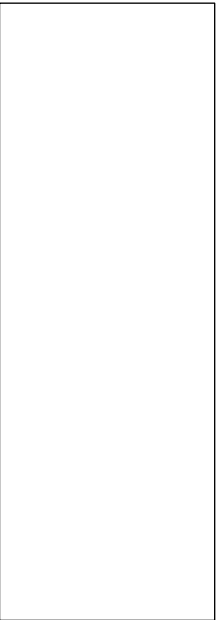
②



⑤



③



◇ただしく かいて いる ほうを えらんで、) に ○を つけましょう。

①

() ほおきで がっこうの そうじを します。
() ほうきで がっこうの そうじを します。

②

() いえの まえを くるまが とうった。
() いえの まえを くるまが とおった。

③

() ともだちと こうえんで あそんだ。
() ともだちと こおえんで あそんだ。



おねえちゃん●は

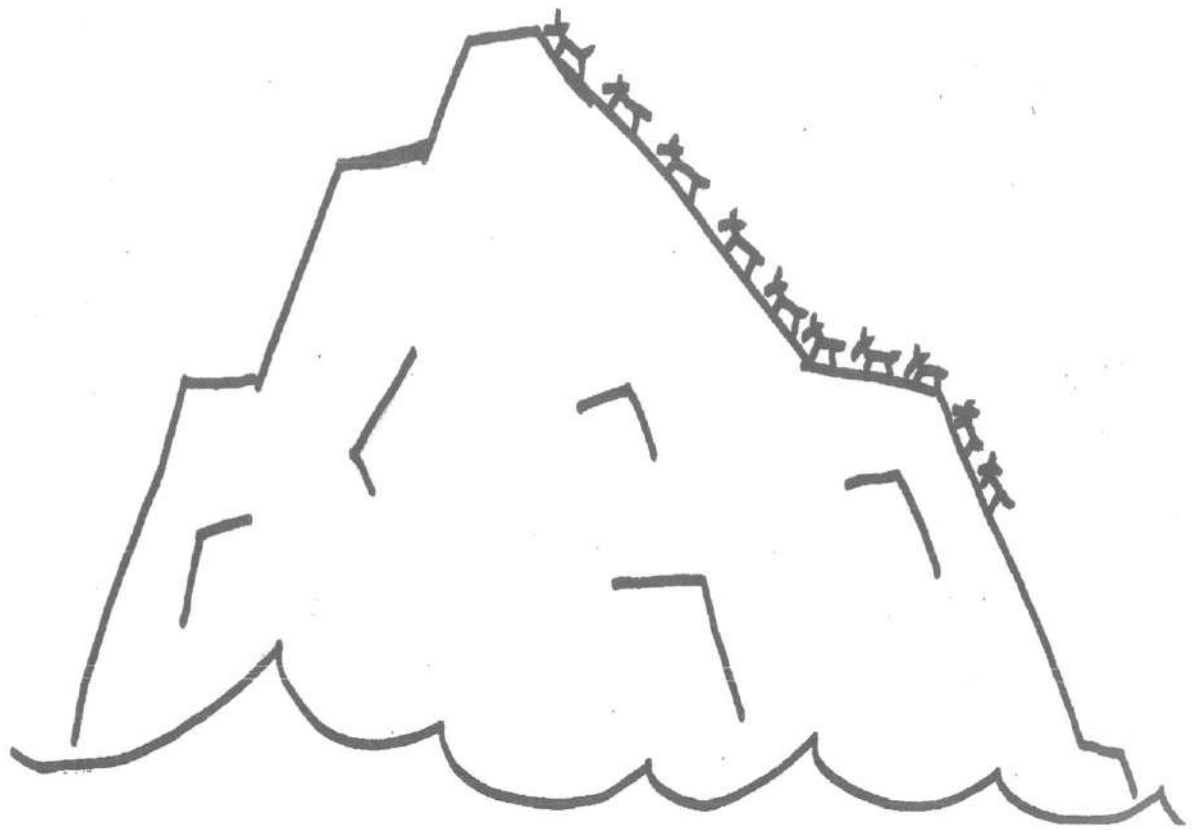
さびしがりや。

「え」の

おかあさんと

はなれたく

ありません。



とお・
ずつ

こお・
ろぎ

おお・
さか

おお・
くの

こお・
りの

とお・
くの

とお・
った

おい
かけ

む
かう

おお・
かみ

う
えを

おお・
きな